
俺は人殺し

桂 ヒナギク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は人殺し

【Zコード】

Z4604C

【作者名】

桂 ヒナギク

【あらすじ】

ある日、主人公の北岡秀はしてはいけない事をしてしまい、少年院へと収容されて・・・。

(前書き)

読み逃げ禁止です

俺こと北岡 秀は今、練馬少年院の牢屋の中にいる。俺の身に何が遭つたのか。これからそれを話すとしよう・・・。

あれは、8月半ばの事。俺の幼馴染みで彼女でもある南岡 楓は、俺の親父と再婚をして俺の新しい母親に成つた。だが、まさかあんな事になるとは、夢にも思つていなかつた。

その日、俺がバイトから帰宅すると、リビングで親父と楓が楽しそうに話していた。親父と楓は俺に気付くと、

「お帰り！」

と声を揃えて言つ。

「ただいま。てか楓、来てるんなら連絡くらいくれよ

「秀、母さんに向かつて楓とは何だ！？」

「あ？」

俺は目を点にして、疑問符を頭に浮かべた。

「母さん、つてどう言つ事？」

「実は、前から言おうと思つてた事が有つたんだがな、父さん再婚しようと思つてたんだ。で、今日正式に楓と結婚した。だから、楓はお前の新しい母親だ」

「じめん、秀。私もね、言おう言おうと思つてたんだよ。夏休みに入つて、秀がバイト始めたでしょ？そしたら、私達会う回数減つたじゃない？それで、少しでも癒しならなかなつて、出会い系を始めたの。で、ある日男の人から逢わないかとメールが有つて、逢いに言つたわ。それが秀のお父さんだつた訳。それから私達は何度かデートして、お互い恋をしてしまつたの。そしたら、秀のお父さんが言つたわ。『結婚しないか』って・・・。秀の事もあるし、私なりに色々考えた。そして、考えた末出した答えは、『はい』だつた。

・・。と訳つ訳だから、今日から私は秀のお義母さん。宜しくね
」の時、俺の中の何かがブチ切れた。

「ふざけるな・・・」

俺は俯き加減に涙を流してそう呟いた。

「秀?」

「何で・・・何で話してくれなかつたんだよー?お前言つただろ!」

小さい時、俺の嫁に成るつて!あれば・・・あれば嘘だつたのか!
?」

「秀・・・」

「もう良いつ、俺は出て行く!」

俺はそう言つて家を跡にした。

「秀!」

と、楓が呼び止めた氣がしたが俺は無視した。

夕暮れ時、俺は途方に暮れながら町中を彷徨い、とある河原へと
やつて來た。

女つてのは、何で16で結婚が出来んだよ・・・。

「クソ!」

俺は石を拾い、川に向かつて投げた。石は水の上を数回跳ねて進
み、数メートル行つた所でボチャンと沈んだ。

「秀!」

と、追つて來た楓が俺を見付け、河原へと降りて來た。

「秀つてさ、落ち込んだ時とか、良く此処に来るよね・・・

「・・・さい」

「えつ?」

「五月蠅えつて言つてんだよ!」

怒りを露わにした俺は、物凄い形相で楓を睨み付けた。

「どうしたの秀、そんなに怒つて?」

「これが怒らずにいられるかよ!?」

「これが怒らずにいられるかよ!?」

俺は楓を突き飛ばし、仰向けに倒した。

「一寸、秀？幾ら難でもこんな所でそんな事しちゃ……」

俺は楓を睨んだまま、彼女の上に跨った。

「俺はお前を許さない。俺に内緒で他の男とトーントして挙げ句の果てには結婚かよ！？ふざけんじゃねえよ！」

俺は傍らに在ったテニスボールくらいの大きさの石を拾い上げ、「お前なんか・・・お前の顔なんかもう見たくも無え！」

と、手にした石を楓の頭目掛けて振り下ろした。

「やめて秀！」

だが時既に遅し。楓の頭には一発目の攻撃が加わっていた。

「死ねえっ、お前なんか死ねえ！」

俺は怒りを込めて一度目の攻撃をした。そして三度、四度と、幾度と無く石を楓の頭にぶつけて行く俺。最初の方は、楓も必死に為つて止めてや助けて等、大声で叫んでいたが、次第に楓は声を出さなく為つて、ついには意識を失つた。

「楓・・・？」

俺は楓を殴つていた手を止め、石を捨てて楓を揺すつた。だが、楓はピクリとも動かない。

「冗談だろ楓？なあ、冗談だよな！？」

俺は楓の呼吸を確かめるが、息をしていなかつた。

「楓、起きろよ楓！俺が悪かつた！謝るから目を開けてくれ！」

と、そこへ見知らぬオバサンと交番のお巡りさんがやつて来て、「あいつですっ、あいつが人を！」

オバサンは俺を指差してお巡りさんに言つた。お巡りさんは俺の下へ駆け足で来ると、俺の両手に手錠を掛けた。

で、今に至る訳だ。そう言えばもう直ぐ、楓のお葬式だ。俺は扉を叩き、覗き窓から看守に声を掛ける。

「なあ、俺を出してくれないか？もう直ぐ楓の葬式があるんだ。出

席をしてくれよ」

「駄田だ！ 良いか、お前は犯罪者なんだぞ！ つ犯罪者は罪を償つまで出してはいけないと決まつていいんだ！ 解つたら静かにしていて貰おうか」

だよな。そりや そりや。何であんな事、しつやつたんだうつな？ 俺はもう、生きていても仕方がない。此処から出られないくらいならせめて、せめて楓の所に・・・。

俺はその日、看守の田を盗んで首吊つ自殺をした。自分の服を紐状にして・・・。

(後書き)

読み逃げしねえでちやんと感想書け!—これは命令だ!—B Y · 北岡 秀

北岡君に代わってお詫び申し上げます。最後まで読んで頂き有り難う御座いました。感想の方お待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4604c/>

俺は人殺し

2010年11月3日02時01分発行